

# 暁の渚離りて

(昭和二十二年寮歌)

篠原昭壽君 作歌

竹内五男君 作曲

一  
あかつき なぎささか  
暁の渚離りて

ふるきもの 光なきもの  
底ひなき海に抛れば  
いささけき水輪が呼ばふ  
想ひ出の古りし仕草に  
告ぐるなりいたき別れを

二  
とこととは  
永遠に絶ゆることなく  
ひたひたと寄する波間に  
万象のよみがへりしを  
はぐくみしなげ忘れず  
真実の旗幟を取り持ち  
いゆくものひたあゆむもの

三

さあれ吾が幸は希望は  
ふたたび会ふ事なしと  
燃ゆる火の炎立ちに消えぬ  
あるはただ宿命のみなる  
さだめ故旅を行くなり  
いたましきいのちと云はめ

四

をぶね はまつた  
小船もて浜伝ひ行き  
火の神の荒ぶる山を  
怖れみてかへりみすれば  
たちまちに幻惑は裂け  
くれなゐの血潮流れて  
天地は夕焼けにけり

五

涯知らぬ海さまよひて  
い着きしは辛夷咲く丘  
友垣とあつく結びて  
いたましき宿命とかむと  
ひたざまに立ちあへぐ夜半  
静かなり星は降りつつ

六

あふ なみだとど  
溢れ出る涙留めて  
丘高く秀づる草の  
友よ見よ紅に映ゆるを  
歓喜に充てるそよぎを  
春秋は移りて行けど  
睦びつつ耐へてを行かな